

総合計画第2期実施計画に基づく令和3年度の取組状況に対する点検・評価について

令和3年度（2021年度）については、川崎市病院事業の計画としては「市立病院中期経営計画2016-2020」と「市立病院経営計画2022-2023」の狭間の年であり、経営計画が設定されていない年度となっております。

そこで、令和3年度の点検・評価作業としては、昨年度の本委員会でご説明のとおり、「川崎市総合計画第2期実施計画」に設定されている病院事業の成果指標の目標値について、令和3年度の達成状況と、取組内容などの状況について報告させていただき、その状況に対する各委員からの御意見を取りまとめることにより、本委員会における点検・評価とさせていただきます。

令和3年度の取組状況に対する点検シート

川崎病院

取組課題1 医療機能の充実・強化

取組項目	令和3年度の主な取組内容	成果指標区分	成果指標名	R3年度実績値	第2期実施計画R3年度目標値	目標値達成率	前年度増減値	R2年度実績値(参考)	取組内容などの状況と成果の分析、今後の方向性
取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化									
①救命救急医療の充実	①救命救急センターの安定的な運営及び体制強化に向けた救急医及び救急救命士の安定的な確保 ②川崎市メディカルコントロール協議会等、市内関係会議への参加及び協力 ③救命救急センター厚労省評価基準S級の維持 ④コロナリー・腹急ホットラインの充実 ⑤救急ワークステーション稼働への準備 ⑥救急搬送件数目標6,500件	中期計画 総合計画	三次救急搬送患者 応需率	86.0%	98.1%	87.7%	-9.5%	95.5%	【成果指標及び取組内容の状況と分析】 ①救急科専門医10名（うち1名が救急科指導医）、救急科専攻医3名、救急科研修医若千名、救急専従薬剤師1名で、ER、救急病棟（EICU4床とEHCU16床）をカバーし、RRS（Rapid Response System）をリニューアルしました。 ②開催されたすべての会議に出席しました。 ③継続してS級を維持しました。 ④コロナリー・ホットラインは応需率93.1%、腹急ホットラインは応需率92.8%と高い数値を維持しました。 ⑤消防局と協議を行いながら、設計を進めました。 ⑥3次救急搬送患者応需率及び救急患者受入数は、新型コロナウイルス感染症患者の受入体制確保のため、患者の受け入れに支障を来したことから減少しました。 【今後の方向性】 ①救命救急センター（ER【1～3次救急】、EICU、EHCU、RRS）およびプレホスピタル対応、災害対応など、運営のためには救急医数が14名必要で、救急科専門医10名では少なく、救急科専攻医と共に計3-4名の募集が必要です。これら複数の領域をカバーしているため、救急救命士と併せて積極的な採用活動を進めます。 ②今後も消防局と連携しながら、プレホスピタル活動の充実と効果的な救急救命士の育成につながるよう、救急ワークステーション稼働への準備を進めます。 ③新規患者獲得のため、都内の消防署などとも意見交換を行っていく予定です。 ④③引き続き取組を推進します。
		中期計画	救急自動車搬送 受入件数	5,834件	-	-	32件	5,802件	
		総合計画	救急患者受入数	17,637	19,800人	59.2%	2,327人	15,310人	

「総合計画」：川崎市総合計画内で設定されている成果指標です。
 「中期計画」：市立病院中期経営計画で設定されていた成果指標を、参考までに掲載しています。

市立病院中期経営計画で設定されていた成果指標については、令和3年度の目標値がありませんので、空欄となっております。

本委員会でのいただいた御意見を取りまとめさせていただきます。

<外部評価> 委員会委員による意見等